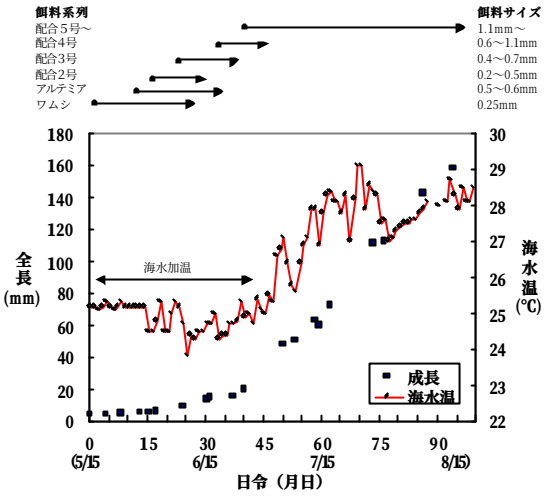
カンパチ仔稚魚の成長はどんなもの?！

カンパチは温帯・熱帯域に広く分布し，わが国では東北地方以南に出現するといわれています。市場では，主に刺身等で出回ることから，特に時期を問わず出荷できるようで，現在では養殖も盛んに行われています。本県は，その海域特性を生かし全国一の養殖生産量を誇っています。しかし，その種苗は，天然種苗に依存している割合が多く不安定な上，その殆どが外国産種苗の輸入に頼っているため，疾病等の持ち込み等多くの問題が考えられます。当センターでは，養殖業の充実を図るため，平成９年度からカンパチの種苗生産基礎試験に取り組んでいるところですが，今回，平成12年度の試験で生残した数尾の継続飼育で得られた成長等の結果や他機関の報告書等から得た知見をもとに，カンパチ仔稚魚の成長等について紹介したいと思います。

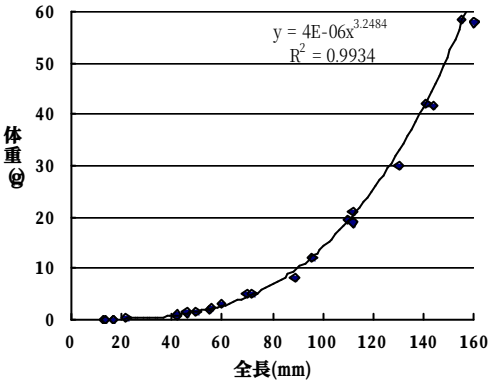
通常，種苗生産として飼育する場合の餌料系列としては，開口(日令3～4)から全長16㎜までＳ型ワムシを，全長７㎜から20㎜まではアルテミアノープリウスを，全長８㎜から配合飼料を小さい粒径から段階的に与えていきます。仔稚魚の飼育水温については，24～25℃が適温と考えられ，これを下回る時期は加温して飼育しています。

成長については，日令0(ふ化時)に全長3.8㎜が，日令15で約６㎜，日令30で約16㎜，日令45で約30㎜，日令50～55になると，全長50㎜に達し（マダイの場合，日令90で全長約55㎜），図－１の様な曲線を描いていきます。

また，全長と体重の関係は図－２の様な相関が得られ,全長20㎜で約0.1ｇ,50㎜で約1.6ｇ,70㎜で約5.0ｇ,110㎜で約20ｇ,130㎜で約30ｇ,160㎜で約60ｇとなり，一般に養殖業者が入手する30ｇのカンパチ稚魚は，図－１からおおよそ日令75～80，つまりふ化してから２ヶ月半の種苗と考えられます。



図－１　カンパチ仔稚魚の成長，飼育水温，餌料系列の推移



図－２　　カンパチ稚魚の全長と体重の関係

今回の資料はサンプル数が少ないことからあくまで参考程度のものですが，今後は，親魚からの産卵誘発技術（ホルモン剤処理等による計画的な産卵）を向上させ，良質卵を確保することに加え，基礎的データを蓄積解析することで，量産化に向けての種苗生産技術開発を確立していく必要があります。

（栽培漁業センター　脇田）